



関西支部報

http://www.jackansai.com

山の遭難を考える

茂木完治

昨年、日本山岳会関係者の不幸な死亡事故があり、二度とこのような不幸が起きないようにしようと本部が防止策を提言し、関西支部でも安全委員会を立ち上げて安全性の向上に向けて動き始めています。

そもそも山とは安全なのだろうか。決して安全な場所ではない。岩、雪、沢といったバリエーションだけでなく、ハイキングでも道に迷ったり、滑ったりして思わぬ事故を起こすことがある。過去に私の周辺で起きた遭難事故を思い出してみると、12名の友人が事故を起こし、その結果は死亡7名、ケガ5名であった。場所は岩場2件、沢7件(うち1件は冬の谷)、尾根2件である。沢が多いのは私が沢屋だからで、沢が一番危険ということではない。

そして尾根の2件はいずれも死亡であった。尾根で事故を起こすと致命的になりやすいのかもしれない。1名は下山中につまずいて崖から転落、もう1名は尾根で道に迷ったあげく転落するという不運な事故であった。この迷ったケースだが、彼はあまり山の経験のないハイカーで、その時は単独で尾根を歩いていた。曲がり角で道が消えていたため誤った尾根に入り込んでしまい、その誤った尾根のガレ場で滑落して死亡した。行方不明になってしまった彼を捜すのは大変だったが、3年後に狭いルンゼの底でほとんど埋まった状態で見つけることができたのは幸運であった。

彼を見つけることができた一番の理由は、彼が計画書を提出していたので登山ルートが特定でき、そこから絞り込んでたどり着けたからだ。ただ提出先が山のビクターセンターだけだったので、どこの山域へ行ったのかを絞り込むのに、友人間の情報が錯綜して混乱した。北アルプスかもしれないし、紀伊半島かもしれないのだ。そのため捜索活動の開始は2週間後であった。友人に計画書を渡していれば助かった可能性だってあったのに…。

こうしてみると計画書がいかに大事か分かってもらえ

山の日関連行事

「山の日」講演会のご案内

無料・一般参加可

演 題 「岳人・Dr.Mの山道具考」

講演者 真崎 文明 氏

株式会社モンベル取締役上席顧問・前社長

日 時 8月30日(木) 午後6時半～(開場午後6時)

会 場 OIT梅田タワー 2階セミナー室201・202

*会場定員100名のため満席の際はご容赦ください。

「山の日」懇親会のご案内

例年の夏季懇談会は、上記「山の日」講演会として一般に向けての企画となりました。懇親会は講演会修了後、午後7時半より開催します。

会 場 OIT梅田タワー 1階「梅田ワーフ」

会 費 5,000円

申込締切 8月22日(水)

*同封ハガキ(62円切手貼付)で出欠ご返事ください。

目次

山の遭難を考える	茂木完治	1
平成30年度関西支部総会報告	齋藤 修	2
第7回登山教室指導者養成講習会に参加して	若林朋世	3
支部山行報告		4
▽野根山・甚吉森・千本山▽但馬・妙見山▽雨山・奥山▽八チ北スキー場▽古川▽備後山▽レスキュー講座▽鞍馬尾根▽瀬川山▽鉢伏山▽熊山・論山▽清滝川・菩提道▽備後橋▽七色貯水池▽修法ヶ原▽布引▽比叡山		
本山寺山森林づくりの会活動報告		12
わが町池田の「五月山」	山内幸子	13
台湾の高峰と溪谷	茂木完治	14
会務報告		15
平成30年度日本山岳会関西支部総会		17
新入会員・会友紹介		20
支部山行計画		21
自然保護行事		22

るだろう。単独行の持つ危険性、思いもかけず道が消えていたという不運、さらに崩壊地の存在という不運が重なって遭難事故は起きた。

遭難するとたいていの場合第一報は深夜か早朝で、家族などから「帰ってこない…」という問い合わせや、同行者が下山しての第一報から始まる。一人暮らしの単独行の場合は気付くのにはずいぶん遅れる場合がある。そうすると最初から遺体捜索にしなければならない。

一報が入ってからがまた大変である。対策本部を立ち上げて、現地へ入る救助隊、連絡体制を決める。問い合わせやもろもろの情報が入り、乱れて大混乱にならないように時々刻々入ってくる情報の整理、出動メンバーの動向把握をして、二次的な事故、遭難などを起こさないように細心の注意が必要である。

さて、救助活動が終わっても警察での事情聴取やお金の問題が残っている。警察に計画書を提出していないと山岳会の責任者は散々に絞られて始末書を書かされる。保険会社との交渉もある。あきらかに岩場から落ちて事

故死と思われても、そこで病死の可能性だって否定できないではないかと支払いを拒否されることだってあるのだ。現地の森林組合や救助組織が動けば、もちろん請求書も来るのでその支払いもしないといけない。これらを片付けて、やっと終わりというわけではない。報告書を作成して関係者、関係機関に報告しないといけない。お世話になった現地の方々へお礼にも行きたい。追悼集を出してあげたい。とてつもないエネルギーを費やし、疲労困憊、ボロボロというのが遭難救助である。山に登る人はそれをわかってほしいと思う。

山は決して安全な場所ではない。何か“ある”ことを前提に行い、まずは計画書を書いて身近な人と山岳会に渡し、下山したらその旨を連絡する。これが山登りの基本である。まず本人の意識を変え、個人的な技術向上を図ること、それをサポートするための山岳会としての体制作りが大事であり、今後それらを行っていきたいのでよろしく願いいたします。

平成30年度 関西支部総会報告

齋藤 修



開会挨拶する金井支部長 写真提供：野口恒雄

平成30年度日本山岳会関西支部総会が4月25日(水) OIT梅田タワー2Fセミナー室にて開催されました。

午後6時30分より水谷副支部長の司会により、まずは金井良碩支部長の挨拶から始まり、平成29年度は多岐にわたり例年以上の活動が出来たことの報告が述べられ、一昨年、昨年と続いた本会の山岳死亡事故により、さらに安全管理の徹底の話などをされました。

引き続き、議事に移り、山田総務委員から平成29年度の支部の活動、平成30年度の活動方針などの報告がありました。より安全な登山のため「安全委員会」の設置や、

若手リーダー育成事業の継続。新たに登山の文化性を訴えるために「登山文化研究会」を設置し、山岳書、絵画、音楽、民俗・宗教、岳人伝などの分野で研究会や発表会の定期的な開催。これらによって幅広い層から山への興味を喚起し、登山人口の増加と会員増強を図るとの説明がありました。絵が趣味の私には、とても楽しみな研究会の設置です。個人的には、山岳写真に関する研究会も有れば、より門戸が広がるのではないかと思います。また、刊行が遅れている支部設立80周年事業の「東ネパール登山隊2016」の報告を取りまとめ、記念事業を完結するなどの説明、報告がされました。

野村理事からは平成29年度の会計報告、平成30年度の会計予算説明がされ、中村監事より会計監査報告を行い、その結果、承認されました。

また、監事・宗實慶子氏の辞任に伴う新しい監事として井関正裕氏が推薦され承認されました。

各役員の説明のもとすべての議案が異議なく無事承認され、7時10分に閉会しました。

その後、同ビル内のレストランに移り、懇親会が始まりました。総会初参加の私にはたいした登山歴もなく、立派な登山歴のある方達ばかりの中で緊張もしましたが楽しい時間を過ごせました。

参加者

新本政子 新井浩 井関正裕 居谷千春 伊原哲士 今井拓雄 岩崎しのぶ 魚津清和 浦上芳啓 大津陸郎 岡田輝子 小黒節郎 斧田一陽 金井健二 金井良碩 瓦葺邦夫 清瀬祐司 久保和恵 黒田記代 小阪健一郎 小寺佳美 齋藤修 重廣恒夫 柴田美生子 嶋岡章城 隆嗣 助川征 辻和雄 豊田哲也 永井和 中久保忠伸 中谷絹子 中村久住 中村三佳 西尾俊子 野口恒雄 野村珠生 橋本圭之輔 平井一正 平林克敏 廣田猛夫 前田正彰 馬島有美 松仲史朗 三木亮 水谷透 宗實慶子 宗實二郎 鳴松山岳会(高木知子) 茂木完治 森沢義信 山内幸子 山田健 (会友)田中アキエ 横山規江 計55名

**第7回登山教室指導者養成講習会
に参加して**

若林朋世

2月17日・18日の二日間、安藤百福記念・自然体験活動指導者養成センター(長野県小諸市)にて行われた講習会に参加しました。

初日は座学、二日目は水ノ塔山での実技講習です。座学は「(講座1)事故防止と山岳遭難救助活動」、「(講座2)日本山岳会の遭難対策」、「(講座3)支部山行及び登山教室指導要領」の3講義、実技講習はザックを使った搬送方法等を学びました。

座学の講義1は、長野県の山岳救助隊の方による近年の山岳遭難の現状について教えてもらいました。救助隊の方の視点から語られる話は新鮮で、ヘリによる救助の映像も紹介していただきました。やはり救助に当たっていると悲惨な事故にも遭遇するようで聞いているだけで身が引き締まる思いでした。講義2は、昨年施行したばかりの山岳会の登山届けの徹底についてお話していただきました。支部山行だけではなく個人山行についても届けを徹底してほしい旨を仰っていました。講義3では、重廣副会長から関西支部で行われている登山教室の紹介や、翌日の実習で行うザックによる搬送法やロープでのセルフレスキューについてレジュメに沿って講義されました。

実技講習は、スノーシューやワカンを使い、交代しながらラッセルして水ノ塔山まで登り、下りで実習しました。手袋をはめたままだと思ふようにシュリングやカラビナを扱えず、普段から練習が必要だと感じました。ザックを二つ使って搬送する方法は、安定もよく支部でも取り入れたらいいと思いました。

登山も大分敷居が下がり、スポーツ感覚で始める方も多いいと思います。私も最初は、何か体を動かしたいと考えて始めました。しかし山は(海でもそうかもしれませんが)不確定要素の高い場所であり、日常の延長線上にあるものではないと感じました。救助の手が届きにくい場所であるがゆえに、万が一を考えて準備を整えなければならぬと実感しました。

欠席者の近況

◎学内体育館に人工壁を設けると入部者が急増、現在現役部員30余名。従来の山登りを志望する者への登山技術の継承が喫緊の課題です。

1659 大阪大学山岳会

◎今冬は雪深く寒い日が続き春になっても残雪が多く、山はスキー登山に良いコンディション。例年のように大日ヶ岳の滑降を楽しみました。 13000 井上達男

◎仕事でなかなか参加できませんが、都合がつけは低山からもう一度参加していきたいと思ふしますのでよろしくをお願いします。 14439 横谷好則

◎昨年は「著者と語る会」にお呼びいただきありがとうございました。皆様と再会させていただいたのですが、急に叶わなくなりました。いずれまた…

15638 中川委紀子

◎ぎりぎりまで調整してみたのですが研修が入ってしまって欠席させていただきます。申し訳ないです。仕事をしつつ日帰り山行(近場)で頑張っています。

A0051 上森文字

◎支部山行に参加できる機会が少なくなりましたが、足腰に痛みのない身体に感謝しながら筋力低下予防の一助になればとウォーキングを続けています。

90003 黒岩敦子

◎ゆるやか山行に参加しています。今年も東海自然歩道シリーズが続いていますが、山登りとは違う雰囲気(山里の風景)があり、楽しませていただいています。

90011 小林三喜男

◎1月末に左足骨折全治3ヶ月、歩けるようになるのは多分5月頃か？ 90013 青木 昭

支部山行報告

支部山行17-39 4000山グランプリ
四国の山 野根山・甚吉森・千本山

家段勝好

12月16日(土)曇

午前三時半に車3台で徳島市を出発。甚吉森へ通ずる中川林道が倒木により通行困難のため、千本山からの往復登山となった。

奈半利川沿いにある登山口には、駐車場、トイレ、看板などが整備されている。吊り橋を渡り、腐りかけの階段付きの木道がはじまった。周りにはとても抱えきれない太さの杉が数多くあるが、「これから先にはもっと大きな杉が沢山あるのでこれで驚かないように」と尾野四国支部長。木道が終わり緩傾斜になると大きな洞が開いた杉や、「親子杉」「はちまき落とし(見上げるとはちまきが落ちる)」などの看板のある巨木が次々と現れた。太い杉の新しい切り株があったが、それは素人目にもわかるぐらい年輪の間隔が狭く、ゆっくり成長した証拠だ。千本山手前のピーク山腹には、電源開発の雨量観測設備があった。千本山に近づくと、景色も少し良くなってきた。約3時間で千本山(1084m)に到着。人工林に囲まれそれほど展望は良くない。

そこから甚吉森に向かって下るが、縦走する人が少ないのか少し藪気味だ。景色のいいピークを越え、最後の登りで標高約1200mの手前付近で尾根の道が左手の谷底に向かい、隣の尾根へ道が延びているようだが地図には載っていない。急斜面のトラバースのため、アンザイレンで隣の尾根まで登る。隣の尾根にのって分かったが、元の尾根には大きな岩がありそれを巻いたようだった。まばらな自然林に巨木の杉が少し入り混じる最後の尾根を行き、景色の良い甚吉森(1423m)に到着。少し雪がある。ここで昼食を済ませ、もと来た道を急ぎ戻る。最後は完全に闇となりヘッドランプを点けて下山。その晩は、魚梁瀬ダム近くの満木荘に宿泊、猪汁や山菜、かつおのたたきなど高知の海・山の幸をいただいた。

12月17日(日)雲後晴

5時半に宿出発。雪がちらついていた。未舗装の野川林道を宿屋杉の登山口まで向かう。雨水から林道を保護する盛り土が無数に横断していたが3台とも腹の高い四駆のため難なく切り抜けた。

宿屋杉登山口につくと、気温はマイナス4℃。昭和8



千本山顶 写真提供：重廣恒夫

年の室戸台風で倒れた幹も根本もいまだに残っているのに驚いた。ここから「四国のみち」として整備された野根山街道を歩く。土佐藩の参勤交代にも使われた道だ。途中の熊笹、笹が生い茂っていて、海までの景色もよい。地図を読みつつ歩いていたが、そこからあと300mほどのはずの装束峠が見当たらず、現在地確認に自信を失いかけていたころ、峠の先にあるはずの装束山山頂の看板が現れた。自分の同定力に自信を失っていたら、その先に「装束峠」の看板が。結局、地図の表記がおかしいという話になった。お産杉跡を過ぎ岩佐関所跡から、街道を外れ野根山山頂に向かう。

登山道は不明瞭で、倒木と藪が少しあった。登山口から3時間で野根山(983m)に到着。天気が良いので木の間に徳島の方の山まで見ることができた。雪の付いている高い山は三嶺のようだ。下山時、装束山山頂の展望台に立ち寄った。帰路は新しくできた羽根林道を下るといって賭けに出た。往きの野川林道より荒れていたが、無事に走破。室戸岬で記念撮影し、徳島市へ帰った。

【コースタイム】

16日 登山口07:05～9:57千本山～13:15甚吉森～15:40千本山～17:48登山口

17日 登山口07:39～10:38野根山～13:14登山口

【参加者】

岡田輝子 橋本圭之輔 松村竹次郎 松村文子 黒岩敦子 前田正彰 重廣恒夫 (四国)尾野益大 家段勝好 森山宏昭

計10名

支部山行17-46 県境縦走55

1月27(土)～28日(日)実施予定は、アクセス道路が不通のため中止。2月24日～25日に順延。

**支部山行17-47 4000山グランプリ
但馬 妙見山**

久保和恵

2月10日(土)雨夜雪

八鹿駅からタクシーで村岡の日影から作山集落へ。村外れまで除雪があり助かる。ワカンを履いて出発準備が整った頃、村から正午のチャイムが聞こえてきた。通行禁止の標識から雪深い林道に入る。行く先に踏み跡があったが、対岸に渡る橋の袂で終わっていた。私たちは橋を渡り、旧妙見参道の沢筋を登って行く。雨天とあって雪質悪く、歩きづらい。加えて杉の植林地である。樹上から重い雪の弾丸が落下、炸裂するのを目の当たりにして身震いした。高度が増すにつれて谷深く、雪崩て傾斜のきつい斜面のトラバースなどで時間がかかる。午後4時も近くなる頃、妙見峠に向かうルートと別れ、P1051に突き上げている沢筋を登り林道に出た。安全な場所を確認し、テントを張る。雨は雪に変わり、静かな夜となった。

2月11日(日)雪後曇後晴

4時起床。朝食後テントを撤収し、不要なものをその場にデポ。時間の都合上、蘇武岳はカットし、妙見山のピストンに予定変更。沢筋を詰めて夜明け前にP1051、稜線上に立った。北に向かえば蘇武岳、私たちは南下し、妙見山へ歩を進める。妙見峠は西側下方に林道らしき空間が見える。東側へ下れば名草神社だ。稜線をさらに南下。展望は得られないが、木々が綿帽子を冠って美しい光景が続く。やっと四等三角点(点名妙見山1135.5m)に



妙見山頂 山名標識が見えますか? 写真提供 重廣恒夫

着く。妙見山頂(1139m)へは、その先5分程で到達した。木に結わえられた山名標識を足下に見て、雪の多さを実感した。頂上で記念撮影後、妙見峠から先ほど目にした林道に下り、原形を留めていない林道の道筋を慎重に辿ってデポ地に戻る。もと来た道を下山したが、昨夜からの雪で踏み跡はすっかり消されていた。天気が好転して、陽が差す作山集落に予定より早く帰り着いた。

【コースタイム】

10日 作山11:42～12:01林道出発点～12:39沢筋入り口12:55～14:46休憩～17:07テントサイト

11日 テントサイト06:16～06:26P1051～06:59妙見峠～09:20△妙見山～09:26妙見山頂～10:33妙見峠～11:01テントサイト11:42～13:46作山

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 久保和恵 計3名

**支部山行17-48 ゆるやか山行
雨山・奥山**

黒岩敦子



念入りに準備体操 写真提供:魚津清和

2月15日(木)曇一時雨

雨山は昔から雨乞い信仰のある山と聞かすが、今日の雨は願い下げにしたいと怪しげな空をみながら出掛ける。久しぶりに山内さん指導の念入りな準備体操。続いて久保リーダーからコース確認に加え、いつも以上に安全登山に努めるようにとの注意喚起を受けて出発。

登山道への取り付きが早く、ホットするも土丸城跡へのいきなりの急登に汗ばみながら衣服調整、水分補給して歩く。尾根に出て見えた小富士山は、雨山に登るほどに小さくなって高度を稼いだと実感。雨山山頂(312m)には神社があり休憩所もあった。展望も良く関西空港まで見えたのでそこで早めの昼食。次の目標・小屋谷山へ

はアップダウンを繰り返して進み、小屋谷頂上と書かれた消防署の表示板で気付いた山頂らしからぬ頂上を踏む。途中振り返ると歩いてきた土丸城跡と兩山がよく見えた。永楽池への下りはすべりやすいザレ場のやせ尾根からはじまった。久保リーダーから「足元注意！」の声がかかる。足場の悪い岩稜、段差のある壊れかけた丸太階段を慎重に下山。途中から小雨が降りだしたこともあり安全のため永楽池から二班に分かれて歩くことになる。展望台への登りも足元の悪い階段やザレ場が続き、更に慎重に登る。立派な展望台から永楽ダム東屋に先着しているメンバーが見えるも声は届かず。休憩後、メンバーの待つ東屋への下山はまた歩きにくい階段が…。合流して歩行終点のバス停まで一緒に歩く。今回の兩山は低山ながら展望の良い場所も多く、変化にとんだ歩き応えのある楽しいコースでした。

【コースタイム】

土丸BS09:39～10:07土丸城址登山口～11:07土丸城址～11:36兩山山頂12:10～13:25上永楽池～14:24東ハイキングコース展望台～14:58永楽ダム東屋～15:31浪商学園前BS

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 新井浩 新本政子 浦上芳啓 金井健二 中島隆 中山勝也 野村哲夫 橋本圭之輔 前田正彰 松村文子 秋月修次 浅田博三 岐部明弘 木村早苗 黒岩敦子 小林三喜男 田中アキエ 中田栄 蓮川博凡 播戸日出生 横山規江 計24名

支部山行17-49 スキーイベント ハチ北スキー場

小黒節郎

関西支部に移籍して1年半となりますが、この度諸先輩より「スキー担当」に指名され、今回のスキーイベント開催となりました。ハチ北スキー場での一泊二日のゲレンデスキーを楽しく開催することができました。

2月20日(火)晴

今回は、バスツアー(宿泊・リフト券付)で新大阪と三宮それぞれの出発地からスタートして10時30分過ぎにハチ北スキー場到着。昼食時に現地合流組を加えて全員集合。午後から快晴に恵まれハチ北スキー場でたっぷり滑走。鉢伏山頂上からは目の前の氷ノ山を筆頭に360度のすばらしい展望で気分よく記念撮影。夜はすき焼きを囲んでの食事から部屋での二次会で盛り上がる。

2月21日(水)曇

鉢伏山頂から南斜面のハチ高原スキー場に移動し、神

戸大学ねむの木山荘に滞在中の橋本氏の案内で滑走。こちらは小学生のスキー教室の団体が一杯。ぜひ大人になってもスキーを継続してもらい山好きが生まれて欲しいものです。ハチ高原スキー場の麓に建つねむの木山荘に全員おじゃましてストーブを囲んで懇談。橋本氏と一緒に滞在中の和光氏も加わり、歴史ある山小屋の中で山談義に花を咲かせる。その後15時頃までスキーを楽しみ、それぞれ帰途に。

今回のメンバーは最高齢宗實さんを筆頭に80代3名参加。皆様年齢を感じさせない華麗な滑りでびっくり。来年からも年1回のスキー場イベントを定例開催して裾野を広げ、山スキーの企画にも繋げていきたいと希望しています。

【参加者】

新本政子 金井健二 久保和恵 辻和雄 宗實二郎 山内幸子 山下政一 山田健 小黒節郎 計9名



ゲレンデトップにて 写真提供：小黒節郎

支部山行17-50 県境縦走55 古川～瀬戸小屋～備後川

野村珠生

県境縦走も尾鷲となると大阪からのアクセスも遠く、ほぼ5時間かかり、前日に尾鷲に入る。ホテルが駅前2分と近いのが嬉しい。

2月24日(土)晴

駅に7時集合。先月通行止だった八幡トンネルも重機を移動し通過出来るとのことで、タクシーで古川沿いの奈良・三重県境まで入る。落石の痕跡が残る崖の登りからのスタートとなり早々にロープを結ぶ。稜線合流点には10時前に着いた。ここからは、三角点のある瀬戸小屋に向かったの結構厳しい登りが続く。標高が1000mを超えるあたりから先日来の残雪が現れる。北斜面の雪はカチカチに凍っており、急傾斜と相まってスリップの危険度は高くなる。上部の岩場では懸垂下降も交えアップダウンを繰り返しながら進むが浮石も多く慎重に登る。三



四等△瀬戸小屋にて 写真提供：重廣恒夫

角点のある瀬戸小屋(1151m)には13時20分ごろに着いた。少し先に進んだ1127m地点にテントを張る。テントの真正面に沈む夕日を楽しんだ。

2月25日(日)曇

まだ暗い中スタートする。ここからは備後川合流点に向かってほぼ600mの下りとなる。今日も下りで1回懸垂下降をした。8時過ぎに植林地上端に到達。林業の作業用モノレールが現れれば下降点は近い。備後川上流の沢に合流したのはテントサイトを出発してから3時間後であった。当初、前日にここまで下山する予定であったが、私にとっては体力的に夕暮れ時の下山はとても無理だったと思う。

気持ちの上ではここでホッとしたが、まだまだ先は長かった。佐渡林道合流点まで2時間程かけて備後川の飛び石伝いの渡渉十数回と高巻数回、更に国道42号までは佐渡峠を越える3時間半もの林道歩きが待っていた。今回の県境縦走は久々に「歩かなければ帰れない」を実感した行程であった。

【コースタイム】

24日 R425奈良・三重県境07:39～08:50稜線合流点～13:17△瀬戸小屋～16:00キャンプ地

25日 キャンプ地05:54～08:08植林地上端～08:49沢合流～10:45佐渡林道合流～13:10佐渡峠～14:35R42

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 野村珠生 計3名

**支部山行17-51 レスキュー講座
応急手当 (赤十字救急法短期講習)**

2018年3月3日(土) 13:30～16:30

会 場：弁天町ORC200生涯学習センター(和室)

講 師：泉澤 治氏(赤十字救急法指導員)

内 容：

- ・「救急法の基礎知識」をテキストに従って確認
救命の連鎖、手当の基本
- ・三角巾の扱い方・畳み方
- ・止血方法実習(頭、腕、足の各部位)
- ・足首の固定を実習(捻挫など)
- ・膝の固定を実習(膝が痛い時、歩けるようにする)
- ・前腕の固定を実習(前腕の骨折など)
- ・アウトドアでのホットタオルの作り方と利用法
首の後ろ側を温めてリラックス

汗をかいた後、ホットタオルで拭いてスッキリ・サッパリ(テント場他で)

参加費：800円(会場費等実費)

[黒田記代]

【参加者】

石原順子 魚津清和 浦上芳啓 岡田輝子 瓦葺邦夫
久保和恵 黒田記代 薦田佳一 辻和雄 中山勝也 橋
本圭之輔 山内幸子 計12名

**支部山行17-52 しっかり歩こう
鞍馬尾根から奥貴船橋**

関戸京子

3月4日(日)曇時々晴

今回は京都の鞍馬尾根を歩くコースで登山計画書の行程図を見て「ずいぶん距離があるし、山の上下りが多いし、時間がかかるだろうな。お正月以来山を歩いていないけれども、みんなについていけるかな」と思って参加する。

遅刻者を待っていたので計画より10分遅れで鞍馬駅を出発。東海自然歩道の看板の立つ薬王坂から尾根にそってなだらかな上りのトレイルが続き戸谷峰(525m)に全



三等△戸谷峰にて元気な姿 写真提供：前田正彰

員元気に到着。木々の間から太陽の光が時折あるが展望はほとんどない。

ここから登山道のない支尾根を下り始めたが伐木が行く手を遮り、それら迂回したりして鞍馬川に下りたものの対岸に渡れる場所が見当たらない。飛び石を川に投げ込んで渡る。一人は大きく迂回して渡った。

実はここからあとに、今回の山場となった急坂が待ち構えていた。見たところはややきつめの斜面だが、足場がズルズルとすべり、私の脚力では前に進めず、クライミングさながら両手であちこちにつかまり腕力でよじ登った。仲間の一人の足が攀ったので、カバーしながら登る。12時半頃に鞍馬山への分岐となるP634に順次到着、ここで昼食。希望者6人で鞍馬山の経塚を往復。地図を見ながら鞍馬尾根を北行しP674を越えたあたりで、初めて人に会う。左下に見える林道に一旦下ってからP700から南西にのびる尾根に登り返しコブ(650m)で休憩をとった。貴船川への下りは、始めはゆるやかであったが、植林帯に入ると急降下する。安全確保のためザイルも使用した。私はザックの奥に10メートルのザイルを入れていたものの、どこにあるか取り出すこともできず大いに反省した。奥貴船橋に下りたものの夕闇もせまる4時半で、貴船山はまたの機会にして貴船口駅へと向かった。

今回の山行は、大変ではあったけれどもいろいろ貴重な体験ができ、改めてJACのメンバーのそれぞれの魅力を知ることができました。

【コースタイム】

鞍馬駅09:20～09:40薬王坂～10:25戸谷峰～12:35P634～13:30鞍馬山～14:00P634～15:23P650～16:30奥貴船橋～17:40貴船口駅

【参加者】

山内幸子 小黒節郎 関戸京子 辻和雄 永井和 野口恒雄 前田正彰 若林朋世 計8名

支部山行17-53 4000山グランプリ
 瀨川山・鉢伏山

松仲史朗

3月10日(土)晴

JR山陰本線八鹿駅よりタクシーで国道9号線を走り、森と海と太陽をテーマとして建設された木の殿堂の前に到着。木の殿堂入口手前の「十石山頂・瀨川山頂」の標識がある瀨川山登山口から雪に埋もれた林道をワカンで瀨川山に向かう。少し登りがあり、途中の十石山(870m)

を過ぎると稜線までは緩やかなアップダウンの道。稜線の林道合流点は、雲ひとつない快晴の青空で清らかな風で爽快。真白な雪景色に陽射しが強いのでサングラスをしていても眩しい。ここから瀨川山までは積雪80cm位で、1kmほど真っ直ぐに延び、カラマツやカエデの木々が続く幅の広い但馬アルペンロードを進む。林道と並行してうさぎの足跡が続き、2mを超える鹿のジャンプ跡もあった。1時間程で瀨川山(1039.3m)に到着。山頂から南西の展望は鉢伏山と氷ノ山、眼下にはハチ北高原が広がり、東に妙見山がはっきりと見渡せる。林道に下ると「瀨川山山頂すぐ駅」だった。野間峠を越えて鉢伏山山頂とハチ北スキー場を見ながら進み、最適なテントサイトで夜空の星の下、心地よく眠りについた。

3月11日(日)曇後晴

3時半起床。ヘッドランプを頼りに但馬アルペンロード「野間峠駅」を通過後、鉢伏山登山口から雄大な鉢伏山スキー場のコースを左側に北西尾根を急登する。朝焼けの光景がとってもきれいだ。更に鉢伏山まで急登が続くスキー場の縁を進むと、雲ひとつない明るい青空になってきた。今日もいい天気になりそうだ。登山口から1時間半程で鉢伏山山頂(1221.6m)に到着。ハチ・ハチ北スキー場の標識とデジタル温度計掲示板が設置されている。寒いはずだ、氷点下8.8℃を表示している。しばらくして、鉢伏山スキー場リフトが動き出し営業前の試運転が開始された。山頂からは360度の展望に丸く可愛い高丸山がある。稜線P1114から下って登り、木道を進むと高丸山に到着。ブッシュの中の四等三角点を探した。この山頂も景色が良く、氷ノ山が展望できる。

眼下に小代越が見える。小代越に氷ノ山山頂まで5.5kmの標識がある。下山途中に、鉢伏山の中腹の別宮地区には昔なつかしい棚田が広がっていた。下山した鉢伏バス停付近は春の訪れを感じる風がやさしく吹いていた。



鉢伏山山頂にて 写真提供：重廣恒夫

【コースタイム】

10日 瀨川山登山口11:50～13:56十石山～14:03P870～14:40林道合流点～15:47瀨川山～16:49P934東(テントサイト)

11日 テントサイト05:16～05:32野間峠駅～05:47鉢伏山登山口～06:40スキー場尾根～07:20鉢伏山～08:27P1114～08:59高丸山～09:09小代越～09:44P1019～11:36林道始点～12:02鉢伏BS

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 久保和恵 松仲史朗 計4名



滝尾山にて 写真撮影：前田正彰

**支部山行17-54 しっかり歩こう
熊山から論山**

中山勝也

3月17日(土)晴

大阪から電車で2時間10分、熊山駅に降りると気温は低いが快晴だ。週間予報では雨になっていたがとりあえず天気には恵まれた。

人気のない駅前から西側の道路を進み谷間の道に行く。まずは滝尾山に寄るので右斜面の赤テープから山腹に取付くと、薄い踏跡と赤テープが続いているが倒木やらシダの茂みなどでちょっとした藪漕ぎだ。急なところは木をつかんだりして登っていくと尾根上には道がある。林が切れ露地になったわりと狭い山頂に着く。立ち木に古ぼけた「滝尾山」の山名板が縛りつけてある。わずか191mだが日の当たる気持ちの良い山頂だ。南に下り、登山道に合流する。林道を横切って段々の道になると同じ側の足ばかりが上りになって調子が悪い。左下の木の間に熊山池を見送ると展望台に着き、熊山の町やそのずっと奥には霞んだ鳥取県の山が見える。ここから一登りで注連縄が張ってある竜神二ツ井戸で湧水の溜りが二つある。以前来た時はとても飲めそうになかったが、水が澄んでいて杓まで置いてあるので、掬って飲んでみたら冷たくスッキリしていて意外だった。すぐの熊山神社で昼食タイムをとり熊山遺跡に廻る。広い台地の西の方に方形に積み上げた石積みがピラミッドのように三段積まれている。台地の南端には展望台があり吉井川の流れと備前の街並みが一望だ。電波塔の立つ熊山頂上には舗装道が通じていて頂上の趣に欠けるが建物の脇、林との境に二等三角点(507m)があり横の木に山名板がかかっている。今日のメインピークなので集合写真を撮る。

ここからは町界尾根の小ピークを越えながら和気駅へと高度を下げ、まずは展望のない尺八山(470m)。次は

防火道脇にある四等三角点大滝山(425m)。林道終点から林の道を小さく上下して行くと黒岩(クレイワ)があり、上に登ると南に山に囲まれた入り江が青く見える。三俣から雑木林を突っ切ってゆくと切り開きになった四等三角点の烏泊山(434m)に着くが、ここも林に囲まれ眺めはない。論山南面の峠に大きく下る途中に白岩という露岩があり論山の眺めが良い。峠からは登り返しになり急登で息が切れるが距離は短い。論山頂上は三等三角点(319m)で今日最後のピークだが、ここも林に囲まれて展望なしだ。論山北側の峠へも急降下で尻餅をつかぬように木につかまったりしながら慎重に下る。北の峠からはジグザクの道になるが落ち葉の下に石が転がっていて歩きにくく足首をコネてしまいそうだ。道が緩やかになったところで最後の休憩を取り下って行くと、ひょっこり堰堤横の車道に出た。後は山陽自動車道の下をくぐり和気の街並みに入り和気駅に到着で登山終了。

標高が低く地味な山域だったが六つも山頂を踏むことができ満足の山旅だった。

【コースタイム】

JR熊山駅10:25～11:05滝尾山～11:55展望台～12:40熊山神社13:10～13:45熊山～14:15尺八山～14:45大滝山～15:15黒岩～15:40烏泊山～16:30論山～17:35JR和気駅

【参加者】

山内幸子 小黒節郎 久保和恵 橋本圭之輔 前田正彰 中山勝也 計6名

**支部山行17-55 ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く5
清滝川・菩提道コース**

金川清弘

3月22日(木)晴時々時雨

昨秋、台風接近のため中止となった区間を埋める。桜の蕾も赤くふくらみ、満開まで1週間足らずの感が



清滝川沿いを歩く 写真提供：魚津清和

する3月下旬、阪急嵐山駅に集合。渡月橋を渡り、天龍寺西側の道に入る。周知のとおり、嵐山・嵯峨野は京都屈指の観光地で、平日休日を問わず国内はもとより、海外の観光客で大いに賑わう名所であるが、この日は天候の加減か人通りは随分と少なかった。天龍寺から古の俳優大河内伝次郎の別荘大河内山荘、紅葉の庭が美しい常寂光寺、松尾芭蕉ゆかりの落柿舎を通り、8月の千灯供養で有名な化野念仏寺鳥居本を過ぎ、嵯峨野と別れる。

山道に入り、落合橋から清滝川沿いに高雄方面に向かう。谷間を流れる川は前日からの雨で増水。岩を噛んで流れる様もまた美しい。川沿いの道は雨に濡れた岩場もあり滑らないように注意しながら歩く。それでも一度尻餅をつく。情けない、油断は禁物。愛宕山麓を歩き最後の坂道を上ると高雄バス停に着く。空き駐車場で昼食。歩いた後の弁当は格別美味しい。

高尾からはバスで周山街道を北上。菩提道バス停から再び東海自然歩道を歩く。林道に入るときれいに手入れされた北山杉の木立が迎えてくれる。気まぐれな北山時雨に傘を差したり畳んだりしながら歩くうちに光悦寺に到着。記念写真を撮り、鷹峯源光庵前バス停からバスに乗り、北大路バスターミナルで解散した。

【コースタイム】

阪急嵐山駅08:46～09:39鳥居本～10:22落合橋～12:24高雄BS13:10(バス)13:35菩提道BS～14:01菩提ノ滝～15:25光悦寺～15:34鷹峯源光庵BS

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 浦上芳啓 上田典子
瓦葺邦彦 嶋岡章 橋本圭之輔 廣瀬健三 前田正彰
松波幹夫 松村文子 松村竹次郎 秋月修次 浅田博三
木村早苗 黒岩敦子 小林三喜男 田中アキエ 中田栄
蓮川博凡 播戸日出生 横山規江 (会友申請中)金川清弘
計24名

支部山行17-56 県境縦走56 備後橋～西谷～七色貯水池

新本政子

3月24日(土)晴

尾鷲からの経路が八幡トンネル工事のため不通となり熊野市からの入山となった。

7時、ホテルよりタクシーにて出発。桜も咲き出し、海を眺めては春の風情だが山道に入ると薄い霜柱も見られた。池原貯水池に沿って備後橋に向う途中で工事中の通行止めに阻まれたが、20分後には無事通過できただけでなく、県境合流点までタクシーで入れたので所要時間が大幅に短縮できた。早速、アンザイレンして急登の県境尾根を1kmほど喘いで稜線に到達。西谷を抱くように延びる稜線には作業道があり、モノレールや境界の金網が延々と設置されている。急登が続いた後の二等三角点・西谷(991.3m)は馬酔木の灌木の中に隠れていた。15時には登り一辺倒の行程は終了。P841手前のコルでテント設営。豊富な水を得てゆったりとした余裕の晩餐後でも、外は未だ茜色の夕空がひろがっていた。

3月25日(日)晴

6時出発。木の間越しに朝陽が眩しい。今日は下り一辺倒。アンザイレンして慎重に下る。いつもはダブルストックで歩いているが、手当たり次第に木に掴まっての下降ではストックの出番なし。県境に沿って奈良県側にモノレールが続いていた。三重県側への作業道分岐で靴紐を締め直して七色貯水池へ向かって急斜面を下降する。最後は3回の懸垂下降で無事道路に降り立ち、湖岸の桜並木とタクシーに迎えられて緊張とロープを解いた。



三角点西谷を目指して 写真提供：重廣恒夫

【コースタイム】

24日 県境復帰点09:08～11:28稜線合流点～13:32△西谷～15:00キャンプ地

25日 キャンプ地05:59~07:56作業道分岐~10:48七色ダム湖畔

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 野村珠生 新本政子 計4名

**支部山行18-1 六甲山を歩く
修法ヶ原から布引**

前田正彰

4月4日(水)晴後曇

2018年度の初っ端の山行を案内するという榮譽を頂いたにしては甚だお恥ずかしい仕儀となった。と云うのは、本日一番の目的地である森林植物園が休園日であったことである。水曜日が休園日と云うことは全くノーマークで、参加者にはお詫びのしようがなかった。

コースでは、少し遅めとはいえ桜が満開で、それに加えて遅咲きの梅の花、コブシそれにミツバツツジ等々を觀賞し、またウグイスの声を聴きながら厳しい冬を乗り越えたルリタテハ蝶の生命力に感激したりと、正に「春笑う」を満喫することができた。



修法ヶ原にて 写真提供：前田正彰

森林植物園を巡ることができなくなって時間的に余裕が生まれ、参加者の承諾を得て下山地を布引に変更した。ヌケ谷から二十渉を越えて市ヶ原を經由してのコースである。お蔭？で森林植物園の三門(正門、西・東)全てを“挨拶”して回る事ができた。布引貯水池と「かくれ滝」それに雄滝、雌滝も水量豊富で楽しむことができ、ある意味「怪我の功名」となったお笑いの山行であった。

【コースタイム】

JR元町駅08:20~諏訪山公園08:50~09:45猩々池~10:15大龍寺~10:25修法ヶ原~11:00洞川湖~11:25森林植物園西門~11:45同正門12:05~12:45同東門~13:40市ヶ原~14:10布引貯水池~14:55 新神戸駅

【参加者】

黒岩敦子 黒田記代 橋本圭之輔 松村文子 前田正彰
会員外1 計6名

**支部山行18-2 ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く8
比叡山コース**

秋月修次

4月19日(木)晴

天気快晴、風も穏やかで絶好の山行日和である。

大原バス停に集合し、近くの駐車場で山内さん指導による恒例の準備体操を済ませ出発。全員集合に少し時間がかかったため、計画にあった三千院は時間短縮のためカットして東海道自然歩道へと進み、アップダウンを繰り返しながら仰木峠を目指す。仰木峠で少し早い日の昼食タイム。歩行時には気持ち良かった風も、木陰では少し冷たく感じられた。

昼食後、横川中堂を目指す。途中少しきつい階段が続く。横に出てきた脇道の方が少しでも楽な様子で、計画通り進む久保班と脇道に入った魚津班に分かれる(小生は魚津班で行動)。脇道は先で東海道自然歩道に合流する道があるとのことで進むも、結局見つからず京都一周トレイル道にて水井山から横高山を越え、峰辻で東海自然歩道に復帰し、久保班と合流。記念撮影後、延暦寺僧侶の千日回峰をされる途中の京都市内が一望出来るパワースポット玉体杉で、行者になった積りで京都御所を望むも、少しかすんでいて御所が何処か判らざがっかり。釈迦堂、浄土院を経て、本日の到達地、比叡山バスセンターに到着。解散となった。

【コースタイム】

大原BS10:00~11:36仰木峠12:08~13:13横川BS ~13:47峰辻~14:54釈迦堂~15:48延暦寺BC



明るく元気に勢揃い 写真提供：魚津清和

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 新本政子 内田昌子
浦上芳啓 上田典子 岡田輝子 嶋岡章 高木知子 中
島隆 橋本圭之輔 松上美代子 松村文字 森沢義信

山下政一 秋月修次 木村早苗 黒岩敦子 田中アキエ
中田栄 蓮川博凡 播戸日出生 横山規江 (京滋)内田
嘉弘 (会友申請中)金川清弘 会員外1名 計27名

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(1月～3月)

武田壽夫

2018(平成30)年1月4日(木)9:30～15:30

天 候：晴(12時の気温：-1～-2℃)

エリア：45林班に-03

内 容：モニタリング調査区とその周辺の整備

- ・伐倒残置木の整理と針葉樹の枝切り、作業道の改良、里道上の倒木・落枝の整理(合わせて約0.3haを整備)
- ・里道は斜面の階段づくり約10m手掛ける
- ・作業前に本山寺本堂へ参詣し今年の安全を祈願

【参加者】

石原順子 斧田一陽 小櫃徹夫 倉谷邦雄 河野直子
武田壽夫 宮本廣 山本國雄 計8名

2018(平成30)年1月21日(日)9:30～15:30

天 候：晴(12時の気温：4℃)

エリア：45林班に-03

内 容：モニタリング調査区周辺の混合林と天然林の整備、斜面の作業道の整備

- ・林床整備や枯損木除伐は上部で20m×50mと5m×10mの範囲を概ね整備
- ・階段は比高10m程を延伸。

【参加者】

倉谷邦雄 河野直子 杉本佳英 武田壽夫 宮本廣 山本國雄 計6名

2018(平成30)年2月8日(木)9:30～16:00

天 候：晴(12時の気温：2℃)

エリア：45林班に-03、ほか

内 容：モニタリング調査区の現況調査、「45林班に

-03」内の林床整備

- ・枯損木は中・小径木を約15本除伐し、約20m×50mの範囲の林床を整備

【参加者】

石原順子 斧田一陽 倉谷邦雄 武田壽夫 宮本廣 計5名

2018(平成30)年2月18日(日)9:30～15:30

天 候：晴(12時の気温：0℃)

エリア：45林班に-03、ろ-04

内 容：「45林班に-03」内の天然林-林床整備と倒木処理、「45林班ろ-04」の人工林-枯枝打ちと林床整備

- ・天然林では幅10m、長さ80m程を整備、人工林では0.25haを整備。

【参加者】

泉家恵子 斧田一陽 小櫃徹夫 倉谷邦雄 黒山泰弘
武田壽夫 中村賢三 山本國雄 計8名

2018(平成30)年3月1日(木)9:30～15:30

天 候：晴(12時の気温：7～8℃)終日の強風

エリア：45林班ろ-03

内 容：「45林班ろ-03」の人工林で枝打ち、林床整備

- ・50m×200mの範囲(0.1ha)を整備

【参加者】

石原順子 斧田一陽 倉谷邦雄 後藤和子 薦田佳一
杉本佳英 武田壽夫 宮本廣 山本國雄 計9名

2018(平成30)年3月15日(木)9:30～15:30

天 候：晴

エリア：45林班に-03、ろ-03

内 容：大阪さともり推進協議会事務局山本積氏の活動地査察対応

- ・台風の後始末を含め、整備ぶりには一定の評価を受ける

【参加者】

斧田一陽 武田壽夫 計2名

図書委員会からのお知らせ

茶話会を開きます

支部ルームの蔵書をネタにして懇談しましょう

第1回開催日 9月28日(金)18:30～20:00

(開催時間内の出入り自由)

担当：久保和恵

2018(平成30)年3月18日(日)9:30~15:30

本國雄

計11名

天 候：晴(12時の気温：9℃)

エリア：45林班に-03

内 容：天然林の林床整備(倒木・切り放し木の処理、枯損木・常緑樹の除伐)、人工林の枝打ち・林床整備・0.5haを整備。常緑樹で囲まれた5~6本のヤマザクラの日照を回復

【参加者】

泉家恵子 斧田一陽 小櫃徹夫 倉谷邦雄 黒山泰弘
河野直子 下沖裕子 杉本佳英 武田壽夫 宮本廣 山

◆「東お多福山ススキ草原復元」活動報告

田島聖子

2018年3月24日(土)9:00~14:30

実施項目：早春の全面刈り作業2(全面刈り)

【参加者】

斧田一陽 田島聖子 保田健一 計3名

とっておきの山・山行(8)

わが町池田の「五月山」

山内幸子

20代から山に親しんできたので数えきれないくらいの山に登っているが印象に残っている山といえばどのくらいあるだろうか。もう一度登ってみたい山、季節を変えると素晴らしいであろう山、花が綺麗だった山、何度も登っている山、天気恵まれず何度も挑戦した山、雪の山、岩の山、谷を廻行して登った山… 北鎌尾根、北方稜線、槍穂縦走、鋸縦走など印象に残っており機会があればもう一度挑戦したいとは思っている。

私にとって山は自分の足で登る山で、車で行ける山には魅力を感じない。とっておきの山と言われればどこだろうかと考える。学生時代から六甲山には数えきれないくらい登っている。授業をさぼり登っていたし、社会人になってから休日は毎週のように六甲山に通っていた。仕事に疲れてリフレッシュのために登ったし、アルプスに行くためのトレーニングの山でもあった。

今の年齢になってとっておきの山といえばわが部屋から見える五月山だろう。標高315m三等三角点「木部」、通称千代山の三角点があるが、どれだけの人に踏まれているか分からない。東に長く伸び箕面まで連なっている池田市の中央に横たわる市民の山である。いくつもあるハイキングコースは整備されており誰でも登れる。登山口から稜線を走るドライブウェイまで20分もあれば登れるし、長く歩くのであればドライブウェイと平行して自然とのふれあいコースがのびており、三角点の横にある日の丸展望台まで行ける。山をぐるりと一回りしても2時間もあれば歩ける手軽な山である。

盃蘭盆に大たいまつが練り歩く「がんがら火祭り」の日に火がともされる「大」文字も2か所あり、ここに立つと大阪平野が一望でき生駒山をはじめ遠くに金剛山系、

天気がよければ大峰・大台も望め、町を流れる猪名川から中山連峰、六甲山が間近に見え大阪湾から淡路島も見える。

手軽な山で早朝登山をする人も多い。毎朝、冬はライトを点けて歩く人たちはもう何千回も登っておられる。鳥の声を聞きながら登る人も多い。

春は木々の芽吹きや桜の名所でもある五月山公園の桜を愛でながら登り、夏は涼しい中緑に包まれ、秋には紅葉の中赤いじゅうたんを踏みながら歩き、冬暗いうちから歩き出すと夜景とだんだんと東の空が明け行く様子を楽しむことができ来光も拝める。ただ稜線に多くの霊園があることが難点かもしれない。

いくつになっても、杖を突きながらも登れる山で、この五月山が私にとって「とっておきの山」になり、これからはズーッと足が動く限り登り続ける山であるだろう。何年か先にやっとたどり着いた中腹の秀望台で街中を流れる猪名川と高速道にかかるビッグハープの背に鎮座する六甲山や中山連峰を眺めながら若き日のことを思い出しているのであろう姿を想像できる。

(2015/04/15受)



台湾の高峰と溪谷(第1回) プロローグ

茂木完治



台湾は九州ほどの大きさの島であるが、そこには3000mを超える山が200余座と日本の10倍もある山だらけの島である。それに魅せられて私は40年近く台湾の山と谷に通い、台湾の岳人と交流を深めてきた。台湾の山について簡単に紹介したい。

台湾は大きく三つの山脈より成り立つ。

背骨のように南北に走る中央山脈、中央山脈の北で中央山脈にT字に交わる雪山山脈、そして東海岸沿いに走る東海岸山脈である。3000mを超える山は中央山脈と雪山山脈にあるが、その中で代表的な山が五岳三尖である。五岳は玉山(3952m)、雪山(3886m)、秀姑巒山(3805m)、南湖大山(3742m)、北大武山(3092m)で、三尖は大霸尖山(3492m)、中央尖山(3705m)、達分尖山(3208m)である。麓は熱帯雨林、上がるにつれて温帯、寒帯となり3400mあたりが樹林限界である。台湾の山は熱帯から寒帯まで一度に楽しむことができる。

登山に際して入山には、各県の警察と国家公園への届けが必要である。国家公園内は小屋が整備されている。入山人数は小屋の宿泊可能数で制限される。人数超過で小屋に泊まれない時はテントを持てば許可される。小屋はほとんどが無人小屋であり、寝具、食料を持って登らないといけない。自分で持てない人はポーターをチャーターすることもできる。ポーターは荷物だけでなく食料付きという選択肢も可能である。台湾の山で一番素晴らしいのは溪谷である。なにしろ小さい島なので谷は急峻で深い。取り付きから標高差3000mもある谷が無数にあり、沢登りで登るのに1週間以上かかる。

台湾のバリエーションルートの開拓、戦前は沼井鐵太郎氏(台湾山岳会)による1927年の大霸尖山初登頂が知られている。戦後の空白のあと60年代に最高峰玉山の沢登

りが3つ日本人によって行われた。それは63年2月、日本山岳会関西支部の荻濃溪。65年3月、亜細亜大学山岳部の楠梓仙溪左侯。67年3月、九州大学山岳部の沙里仙溪。それ以外では69年12月に第二の高峰、雪山南壁をクラブ雲峰が初登攀している。70年代は日本人の目がヨーロッパやヒマラヤへ向き始めたため空白期間だった。それが80年代に入って一変する。82年8月に大阪わらじの会が玉山の沙里仙溪に入溪したが台風で敗退したが、翌83年秋に再挑戦して完全溯行した。また、同年5月に大西保氏(日本山岳会関西支部・大阪山の会)が楠梓仙溪右侯を初溯行している。その後、大阪わらじの会は84年雪山の七家灣溪、85年南湖大山の陶塞溪、86年北大武山の隘寮南溪左侯、88年5月には大霸尖山の大安溪を登っている。

82年の夏の沙里仙溪に参加した台湾の莊再傳氏、黄孟宗氏にとって初めての沢登り体験は衝撃であったようだ。83年6月に黄孟宗氏が彰化県登山協会溯溪組を結成した。溯溪とは沢登りの意味である。これが台湾人の沢登りの始まりであった。85年11月に梁明本氏、莊再傳氏により台北溯溪倶楽部が作られ、以後、台湾で沢登りは全国的に普及していく。89年8月に岩崎元郎氏が仙人集会を台湾で開催した。仙人集会は、台湾の沢屋をおおいに刺激したようで、少し後になるが1996年から溪仙大会という沢屋の全国大会が数百人規模で毎年開かれるようになった。台湾の巨大な溪谷の開拓は、台湾側と日本側の共同で現在も進められている。

次回以降、近年の山行を紹介する。(つづく)



向陽山3602mより玉山(右奥)を遠望、手前の山は雲峰3564m

平成30年度(公社)日本山岳会関西支部総会

平成30年4月25日 於：OIT梅田タワーセミナー室202

平成29年度活動報告(抄)

(第1号議案)

会員動向

平成30年3月末で会員238名、準会員5名、会員会友15名、支部会友19名の計277名となった。

平成29年度活動実績について

年初の支部総会において、業務内容の増加に対応するため、支部規約を改正し、新たな施行体制で取り組むことになった。すなわち、支部長、副支部長、理事で構成する、意思決定機関の「役員会」と業務実行機関の「委員会」を設置し、新設された準会員と支部会友のより積極的な運営参加を図るため、本年度より準会員と会友に委員会への参加をお願いした。

また、昨年度より継続して、本部の特別事業補助金制度を活用して若手指導者育成と会員増強に取り組んだ。引き続き、「東ネパール登山隊2016」報告書の作成に取り組んでいるが、発刊に至らなかった。

一昨年、昨年と続いた本会の死亡事故に対応するため、昨年12月に本部遭難対策委員会は「遭難対策規定」を改正し、登山計画書提出の徹底を図ることとなった。支部では、直ちに茂木副支部長を委員長とする「安全委員会」を設置し、支部報において「計画書」提出をお願いするとともに、まずは提出していただくことが重要と認識して、登山計画書の支部バージョンを作成し、支部会員が提出しやすいように工夫した。

平成29年度の活動詳細は以下のとおりである。

総務委員会

- ・総会 平成29年4月26日 TKP大阪梅田駅前ビジネスセンター 参加者46名
- ・評議員会 4月19日開催
- ・役員会 12回開催
- ・委員長会 4月12日 11名
- ・夏季懇談会 8月23日 TKP大阪梅田駅前ビジネスセンター 参加者45名
- ・新入会員オリエンテーション
平成30年1月25日 支部ルーム 新入

会員参加者5名

- ・新年会 1月25日 梅田大東洋 参加者47名
- ・委員会 3回開催
- ・【公益事業】第28回藤木祭(山の日関連行事) 10月1日 芦屋・高座の滝前(大阪府、兵庫県各山岳連盟共催) 参加者約120名

山行委員会

【公益事業】

- ・登山教室 座学・初級・中級・上級合わせて延べ255名受講
- ・わんぱく探検(山の日関連行事) 11月26日 13名参加(内子供4名)
- ・レスキュー講座「赤十字救急法短期講習(応急手当)」3月3日 参加12名
- ・「野外料理に挑戦」天候悪く中止

【共益事業】

- ・関西支部県境縦走
平成26年3月、日本海から太平洋に向かってスタートし、平成28年12月終点の太平洋新宮へと達した 引き続き奈良県・三重県の県境縦走を平成29年2月に名張から開始 4月から3月まで9回の実施 参加者延べ84名
- ・4000山グランプリ
テント泊を伴う難易度の高い山行を中心に13回実施 参加者延べ122名
- ・ゆるやか山行
9回実施 参加者延べ217名
- ・その他
しっかり歩こう(延べ46名)、比良山系登山(延べ14名)、陽だまり山行(15名)、スキーイベント(延べ18名)、海外トレッキング(4名)
- ・ロープワーク講習会 2回(延べ17名)
- ・リーダーレスキュー講習会 3回(延べ20名)
- ・四国支部交流山行 天候悪く中止
- ・自然保護委員会
【公益事業】
・日本山岳会関西支部本山寺山の森 森林保全活動
「社会貢献の森」協定により活動継続
京都大阪森林管理事務所等関係機関と

折衝

- 活動主体の「本山寺山森林づくりの会」(会員42名)で保全活動実施
- 活動内容 つるきり 枝打ち 枯損木除伐 林床整備 土留め 歩道・作業道整備 育樹していた幼木を植樹 ナラ枯れ防止のタオル・シート巻きなど
活動日数延べ25日 参加者延べ196名
- ・東お多福山ススキ草原復元活動
東お多福山草原保全・再生研究会でのススキ草原復元活動
活動内容 全面刈、植生調査と保全作業(登山道調査担当)、ガイド養成講座、打合会・総会参加など
活動日数延べ7日 参加者延べ25名
- ・やまみち保全巡視活動
本山寺山保全活動日に隣接の東海自然歩道・里道の保全活動 東お多福山ススキ草原保全活動日に登山道調査・保全活動
- ・自然保護全国集会
7月9～10日 岐阜市・伊吹山フィールドスタディ 参加者7名
- ・環境省近畿環境事務所関係
大台ヶ原の利用に関する協議会 奈良市 1月30日 参加者1名
- ・図書委員会
・【公益事業】山の日関連行事
「著者と語る会」11月18日 弁天町ORC 200生涯学習センター 参加者41名
演題「山と宗教」講師：中川委紀子氏(関西支部)
- ・蔵書の整理 5回に亘って実施 蔵書リストの再整備及びテーマ別に再配架
- ・重複図書の頒布を実施
- ・寄贈図書の受入れ 支部報に掲載
- ・広報委員会
・支部報関連、HP関連で委員会6回開催
・支部報 168号～171号発行
- その他
・スケッチ同好会 6回実施 参加者延べ80名
第2回目 グループ展開催 29年4月24～27日

以上

平成29年度会計報告(別掲)
(第2号議案)

新監事選任
(第3号議案)

平成30年度新監事候補

監事・宗實慶子氏の辞任に伴い、役員会は平成30年度の監事に下記の会員を推薦いたします。なお、任期は平成31年度総会までとなります。

監事 井関正裕(11474)

平成30年度活動方針(抄)
(第4号議案)

昨年12月に設置した安全委員会を中心に、支部会員の登山活動の把握に努め、より安全な登山活動を目指す。あわせて、若手リーダー育成に引き続き取り組んでいく。

また、登山の持つ強い文化性を多くの人たちに訴えることにより、幅広い層からの山への興味を喚起し、もって登山人口の増加と会員増強を図る。そのため、関西支部内に新たに「登山文化研究会」を設置し、山岳書、山岳画、山の音楽、山の民俗・宗教、関西岳人伝の分野での

研究を進め、研究会や発表会の定期的な開催を目指す。

また、従来から実施してきた夏季懇談会を「山の日」講演会と改称し、公益事業として取り組むこととする。あわせて、刊行が遅れている支部設立80周年事業の「東ネパール登山隊2016」の報告を取りまとめ、記念事業を完結する。

平成30年度の活動詳細は以下のとおりである。

総務委員会

- ・会員の親睦と情報交換の場として、総会・新年会を継続実施する
- ・組織の充実を目指し、各種会議および各委員会活動との連携と効率化を図る
- ・支部規約の改正を実のあるものとし、会員増に結ぶべく活動する
- ・「山の日」講演会に引き続き懇親会を開催する
- ・新年会 平成31年1月に開催
- ・総務委員会 適宜開催する

【公益事業】(山の日関連行事)

- ・「山の日」講演会8月下旬開催
- ・第29回藤木祭 平成30年9月30日開催(芦屋・高座の滝前)

山行委員会

- ・若手育成、リーダー養成を兼ねた「登山教室」を継続して開催

- ・難易度の高い「4000山グランプリ」、ゆっくり歩く「ゆるやか山行」等山行の充実を図り、幅広い層の参加者を募り、会員の掘り起こしと共に会員、準会員、会友の増加に努める

- ・会員の体力や技術力アップのための山行や講習を行う
- ・山行委員会を適宜開催する
- ・具体的な活動計画

【公益事業】

- ・登山教室の開催 初級(登山に必要な基本的な知識・技術・体力養成)、中級(沢歩きを通じて、岩場の通過や登攀具の基礎的使用法の習熟)、上級(基礎的な岩登り、沢登り、積雪期登山)毎月1回
- ・「山の日」関連行事 「わんぱく探検」(一般参加)年1回

【共益事業】

- ・4000山グランプリ(一般参加も可)毎月1回
- ・ゆるやか山行(一般参加も可)毎月1回(7・8月除)
- ・しっかり歩く山行(体力増強)年8回程度
- ・沢例会 年1回
- ・その他 スキー、四国支部との交流登山、海外トレッキング等

安全委員会

平成29年度会計報告並びに平成30年度会計予算

平成29年度会計報告(第2号議案)

平成29年度一般会計収支報告(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	447,388	府岳連会費	15,000
本部運営交付金(194名)	194,000	借室費・集会費	629,419
本部事業助成金(194名)	194,000	通信費	86,924
入会金報奨金(13名)	52,000	事務用品費	48,063
支部会費(224名)	715,000	支部報	493,032
支部報広告掲載料	189,000	送金手数料	31,112
事業収入	1,287,600	旅費交通費	23,444
受取利息	2	事業費	1,234,452
支部特別事業補助金	150,000	雑費	20,662
図書販売費	18,435	次年度繰越金	665,317
合計	3,247,425	合計	3,247,425

貸借対照表(平成30年3月31日現在)

資産の部		負債及び正味財産の部	
現金	90,611	剰余金	
銀行預金	156,204	内 訳	
郵便貯金	418,502	(一般会計)	665,317
金銭信託	3,190,962	(特別会計)	3,190,962
		(ルーム運用金)	0
合計	3,856,279	合計	3,856,279

本日会計監査を行い、正確であることを認めました。

平成30年4月18日
公益社団法人日本山岳会関西支部
監事 宗實 慶子 (印)
監事 中村 久住 (印)

平成30年度会計予算書(第5号議案)

平成30年度一般会計収支予算

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	665,317	府岳連会費	15,000
本部運営交付金(200名)	200,000	借室費・集会費	750,000
本部事業補助金(200名)	200,000	通信費	100,000
入会金報奨金(15名)	60,000	事務用品費	55,000
支部会費(230名)	690,000	支部報	530,000
支部報広告掲載料	196,000	送金手数料	30,000
事業収入	1,310,000	旅費交通費	30,000
受取利息	0	事業費	1,270,000
支部特別事業補助金	150,000	雑費	30,000
		予備費	661,317
合計	3,471,317	合計	3,471,317



- ・レスキュー講座の開催
- ・リーダーレスキュー講習会の開催
- ・登山計画書提出と緊急連絡カード携行を励行

自然保護委員会

【公益事業】

- ・日本山岳会関西支部本山寺山の森 森林保全活動
「社会貢献の森」協定締結を得て6年目「本山寺山森林づくりの会」(42名)を主体に活動
森林・山村多面的機能発揮交付金申請による定例活動を主とする。(月2回)約5haの枝打ち、除伐、衛生伐、つるきり、林床整備、土留め、作業道保全、森林作業体験、幼木採集、育苗、ナラ枯防止タオル・シート巻きなど
- ・東お多福山草原復元活動
東お多福山草原保全・再生研究会でスキ草原復元活動

- 春・夏・秋の植生調査と保全作業、全面刈り作業(4回)
- ・やまみち保全巡視活動
本山寺山森林づくり活動時に隣接する東海自然歩道の保全整備 東お多福山登山道整備、観察路開設の検討
- ・自然観察会
春：東お多福山、夏：奈良市、秋：大台ヶ原、冬：本山寺山
- ・自然保護全国集会 7月8～9日 石川県
- ・大台ヶ原の利用に関する協議会 12～3月 奈良県 2回
- ・自然保護委員会 6月・12月の第1金曜日

図書委員会

- ・【公益事業】「著者と語る会」
山の日関連行事として開催
- ・書架の整理、蔵書のネット公開、支部報に図書コーナーを掲載

- ・寄贈図書受入れ
- ・茶話会の開催(於ルーム)

広報委員会

- ・支部報172号～175号、各号22～24頁400部で刊行
- ・HP運営計画
本部サーバ利用への移行作業を進める
- ・その他
事業報告記事と会員からの投稿原稿掲載の二本立てを確立したい
行事報告記事の圧縮化
HP保守作業担当者の確保

その他

- ・スケッチ同好会 隔月開催(うちスケッチ旅行1回) グループ展の開催
- 以上

~~~~~  
平成30年度会計予算(別掲)  
(第5号議案)  
~~~~~

スケッチ同好会 例会のご案内と報告

第24回 【案 内】

日 時 平成30年7月9日(月)
集 合 近鉄富田林駅 北口改札口 9時40分
(かんぼの宿のシャトルバス利用 10時発)
行 先 嶽山城跡(楠木正成築城跡)
嶽山頂上 『かんぼの宿 富田林』
参加費 1,000円(館内使用料)
申 込 平成30年7月2日迄 岡田輝子
e-mail : smiler8823teruko@true.ocn.ne.jp
電話&FAX 06-6533-3177
備 考 持ち物などの詳細は後日、参加者に連絡
昼食「かんぼの宿レストラン」利用可



【報 告】 第22回 甘樫丘展望台

日 時 平成30年3月26日(月)
【参加者】 浅田博三 岩崎しのぶ 浦上芳啓 岡田輝子 金井良碩 久保和恵 薦田佳一 齋藤修 嶋岡章 野村哲夫 播戸日出生 松上美代子 横山規江 計13名

第25回 【案 内】

日 時 平成30年9月10日(月)
集 合 ポートライナーみなとじま駅改札口
午前9時半
行 先 神戸学院大学ポートアイランドキャンパス
申 込 平成30年9月3日迄 横山規江
e-mail: inatyokoyama@ares.eonet.ne.jp
電 話 090-7112-1658
備 考 持ち物などの詳細は後日、参加者に連絡
昼食「学食」利用可



甘樫の丘から奈良盆地 画：久保和恵

第28回藤木祭 会計報告

収入の部		支出の部	
藤木高嶺様より	10,000円	コーラス御礼	20,000円
ご親族野村寛・康様より <拠出金>	10,000円	講演者資料代	10,000円
兵庫県山岳連盟	40,000円	印刷代	17,280円
大阪府山岳連盟	40,000円	通信費 チラシ送料 切手代	2,420円
日本山岳会関西支部	40,000円	コピー代 歌詞@5×120枚	600円
前期繰越金	196,494円	保険料 記念山行参加35名×@40	2,160円
合 計	336,494円	大谷茶屋支払	24,181円
		大谷茶屋御礼	10,000円
		おにぎり代 40個	5,095円
		雑費 打合諸費・乾電池等	4,727円
		小 計	95,703円
		次期繰越金	240,791円
		合 計	336,494円

平成29年10月1日

藤木祭実行委員会 会計 久保和恵 ㊞

備考：齊藤豪氏(大阪府岳連)よりスピーカーの提供を受けました
参加者 約120人

Room日録 2018年

2月3日(土) 支部報編集作業 頒布図書引渡し	3月15日(木) 財務委員会 特別事業打合せ	4月11日(水) 役員会 16日(月) 支部事務業務 本山寺森林づくりの会総会
8日(木) 財務委員会	19日(月) 支部事務業務	18日(水) 支部会計監査 支部評議員会 総務委員会
9日(金) 安全委員会	21日(水) 特別事業打合せ	23日(月) 郵便物受取
14日(水) 役員会	23日(金) 支部事務業務	24日(火) 支部事務処理
28日(水) 財務委員会	26日(月) 財務委員会	25日(水) 総務委員(総会)打合せ
3月2日(金) 特別事業打合せ	27日(火) 会計事務処理	26日(木) 支部事務業務
6日(火) 財務委員会	29日(木) 会計事務処理	28日(土) 支部事務業務
8日(木) 登山教室打合せ	30日(金) 支部事務業務	
9日(金) 財務委員会 特別事業打合せ	4月3日(火) 郵便物受取	
12日(月) 関西登山史研究会 登山教室打合せ	5日(木) 財務委員会	
14日(水) 支部報発送 役員会	6日(金) 会計事務処理	
	9日(月) 会計事務処理 支部事務業務	
	10日(火) 会計事務処理	

受贈一覧

(2018.2.1~2018.4.30受理分)

越後の山旅 上巻 藤島玄著 富士波
出版社 [寄贈・水谷透様]
山岳おおさか No.215, 216 大阪府山
岳連盟
事故報告書・追悼集(北海道幌尻岳事
故) 日本山岳会広島支部
雑木林 20号 日本山岳会東海支部,
猿投の森づくりの会
多摩百山 日本山岳会東京多摩支部

登山月報 第587, 588, 589号 日本山
岳・スポーツクライミング協会
日本山岳会富山支部創立70周年記念誌
日本山岳会富山支部
兵庫山岳 第609, 608, 610号 兵庫県
山岳連盟
日本山岳会支部報
・秋田山岳 No.106
・埼玉支部報 第23号
・千葉支部だより 第42号
・[東京]たま通信 第31号
・越後支部報 第21号

・富山支部会報 No.107
・福井支部報 第31号
・甲斐山岳 第10号
・東海支部報 No.152, 153
・JAC Hiroshima 第66号
・JAC北九だより 第84号
・東九州支部報 第80号
・宮崎支部報 第64号

※発行者による受贈は、寄贈者のご芳
名表示を省略しています。

2018年7月～9月 支部山行計画

※申込は、e-mailで支部宛、もしくは末尾の担当者宛に行ってください。(いずれも締切厳守)

18-13 4000山グランプリ

「焼山1709m・高峰山945m」

日 時：7月28日(土)・29日(日)

コース：中津川駅～黒沢林道～焼山～中津川駅～高峰山～中津川駅

地 図：2.5万分の1「美濃焼山」「妻籠」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせして下さい

難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

申込み：7月21日(土)迄(担当：重廣恒夫)

18-14 沢登り例会

「大峰 北山川白川又川下部」

日 時：7月28日(土)・29日(日)

集 合：R169号白川バス停前 午前10時

コース：白川又川出合(本流)取水口(ゴルジュ)中の又谷出合(林道)白川又川出合

地 図：2.5万分の1「釈迦ヶ岳」

備 考：沢登り経験者

申込み：7月13日(金)迄(担当：茂木完治)

18-15 しっかり歩こう

「保津峡から沢山・桃山」

日 時：8月19日(日)

集 合：JR嵯峨野線保津峡駅 9時5分

コース：JR嵯峨野線保津峡駅～高尾～高鼻谷～白砂山～沢山～桃山～原谷～貴船山～二ノ瀬駅

地 図：2.5万分の1「京都西北部」

備 考：地図を見ながら約20kmを7.5時間程度で歩く
少雨決行

保津峡からいくつかの里山のピークを越える

申込み：8月10日(金)迄(担当：山内幸子)

18-16 4000山グランプリ

「奥三界岳1811m」

日 時：8月25日(土)・26日(日)

コース：中津川駅～夕森公園～奥三界岳～夕森公園～中津川駅

地 図：2.5万分の1「奥山界岳」「三留野」

備 考：詳しくは担当者に問い合わせして下さい

難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

申込み：8月18日(土)迄(担当：重廣恒夫)

18-17 「六甲全縦」トレーニング(1)

「有馬～宝塚」

日 時：9月1日(土)

集 合：有馬温泉BT(「金泉」北側)9時

コース：有馬～魚屋道～一軒茶屋～ドライブウェイ分岐～船坂峠～大平山～岩倉～宝塚

地 図：2.5万分の1「宝塚」

備 考：約18km 歩行時間約6時間(休憩除く)

申込み：8月24日(金)迄(担当：黒田記代)

18-18 ゆるやか山行 東海自然歩道を歩く10

「太神山コース」

日 時：9月6日(木)

集 合：京阪石山駅改札口前 8時

コース：石山駅～南郷洗堰～田上鉱物博物館～泣き不動～太神山・不動寺～三筋ノ滝～田上BS

地 図：2.5万分の1「瀬田」「朝宮」「三雲」「信楽」

備 考：約15km 歩行時間約6時間

申込み：8月28日(火)迄(担当：久保和恵)

18-19 「六甲全縦」トレーニング(2)

「布引～有馬」

日 時：9月15日(土)

集 合：新神戸駅ガード下(駅舎1階東側)8時半

コース：布引～天狗道～摩耶山掬星台～記念碑台～ガーデンテラス～一軒茶屋～魚屋道～有馬

地 図：2.5万分の1「宝塚」

備 考：約21km 歩行時間約7時間(休憩除く)

申込み：9月7日(金)迄(担当：黒田記代)

18-20 しっかり歩こう

「丹波の山 西寺山からとんがり山・白髪岳・松尾山」

日 時：9月17日(月・祝)

集 合：JR福知山線相野駅 8時20分

コース：JR相野駅(タクシー)四斗谷西寺山～とんがり山～白髪岳～松尾山～南矢代駅

地 図：2.5万分の1「谷川」「篠山」

備 考：地図を見ながら約20kmを7.5時間程度で歩く
少雨決行

申込み：9月10日(月)迄(担当：山内幸子)

18-21 4000山グランプリ

「高樽山1673m・井出ノ小路山1806m」

日 時：9月22日(土)～24日(祝・月)

コース：中津川駅～井出ノ小路林道～井出ノ小路山～高樽山～中津川駅

地図：2.5万分の1「加子母」

備考：詳しくは担当者に問い合わせして下さい
難易度の高い山 テント山行 一般参加可
山岳保険加入が必須

申込み：9月15日(土)迄(担当：重廣恒夫)

18-22 「六甲全縦」トレーニング(3)

「鶴越駅～摩耶山」

日時：9月29日(土)

集合：神鉄鶴越駅改札出口 8時半

コース：鶴越駅～菊水山～鍋蓋山～大龍寺～天狗道～摩耶山掬星台～青谷道～阪急王子公園駅

地図：2.5万分の1「神戸首部」

備考：約16km 歩行時間約6.5時間(休憩除く)
申込み：9月21日(金)迄(担当：黒田記代)

ステップアップ登山教室 一般対象 募集中

【初級】

7月7日(土) 生駒山～ぬかた園地～なるかわ園地
8月9日(木) 座学
9月1日(土) 伊吹山

【中級】

7月10日(火) 屏風川中俣谷・鎌ヶ谷左ルート
8月9日(木) 座学
9月11日(火) 屏風川右俣谷・中俣谷

【上級】

7月26日(木) 不動岩周辺
8月9日(木) 座学
9月20日(木) 六甲山・三ツ下谷

日本山岳会 関西支部 海外山行

予告

**ミャンマー・ビクトリア山(3,053m)登頂と
バガン遺跡観光7日間**

旅行期間 11月15日(木)～11月21日(水)

旅行代金 268,000円(別途 燃油サーチャージ・
空港使用料・ビザ関係費用要)

問合せ アルパインツアーサービス
担当：竹森壮孝 Tel 06-6444-3033

「六甲全縦」トレーニング[以降の予定]

第4回「須磨浦公園～鶴越駅」 10月13日(土)
第5回「ハーフ全縦(前半)」 10月27日(土)
第6回「ハーフ全縦(後半)」 11月3日(祝・土)

2018年7月～9月 自然保護行事案内

1 日本山岳会関西支部本山寺山の森(本山寺山森林づくりの会活動)

活動日：7月5日(木)・7月15日(日)・8月2日(木)・
8月19日(日)・9月6日(木)・9月16日(日)

人工林林床整備・天然林常緑樹除伐整備・歩道保全整備
・溪流崩壊防止簡易柵設置など

*体験作業・森林観察参加、本山寺山森林づくりの会
入会歓迎

2 東お多福山スキ草原復元活動

・7月18日(水) 夏の植生調査・登山道保全整備
予備日：7月19日(木)

3 自然観察会・森林観察会

・8月6日(月) 平城京周辺 ツバメのねぐら入り観察
集合 近鉄西大寺駅改札口前 午後4時
詳細は参加希望者に別途連絡
(集合場所への直接参加も可)

*本山寺山の森・東お多福山の活動日に随時、観察会の参加受け付けます

4 自然保護委員会

・7月7日(土) 18:00～ 支部ルーム

問い合わせ・申込み先

斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556/090-4037-4542

※締切：開催日の一週間前まで

※集合：本山寺山の森 JR高槻駅北口アルプラザ前
東お多福山 阪急芦屋川駅前

いずれも午前8時50分



私たちは
人と自然をつなぐ道具を
提案します。

IWATANI-PRIMUS
イワタニ・プリムス株式会社
www.iwatani-primus.co.jp
〒104-0032 東京都中央区八丁堀 4-12-20

登山計画書(届)の提出を！

登山計画書は、出発1週間前に提出してください。
登山計画書用紙は「支部報171号」またはホームページから入手してください。

宿泊を伴う山行(前夜発を含む)

・岩・沢・雪山(日帰りも必要)

・他団体など主催者により適切に登山計画書が作成されている場合は不要

提出先：関西支部安全委員会

①メール：keikakukansai@yahoo.co.jp

②FAX：0742(48)5946 黒田記代

③郵送：〒630-8034 奈良市五条西1-29-4 黒田記代

※各警察署等へは別途提出してください。



MONTURA
山と自然を愛するすべての人に、
イタリア生まれのモンチュラの製品は
アルピニスト、クライマー、トレイルランナーなどの方々に
実用的かつ機能的な製品を提供します。

MONTURA OFFICIAL SITE montura.jp | MONTURA ONLINE SHOP montura.jp/store/

至本町 心斎橋駅①出口 長堀通
よしや タイソー 心斎橋筋北商店街 Step 東急/ハンス
そばよし 南幼稚園

**MONTURA直営店
ALPSTATION 心斎橋店**
大阪市中央区南船場3-1-8
南船場ドリームビル2F
TEL 06-6484-7126
営業時間/11:00~19:00(火曜定休)
alp-osaka.jp



登山用品専門店 Lodge
ハイキング用品から本格登山・クライミング用品まで、最新の山登り道具をたくさん揃えています。経験豊富なスタッフ一同、100%接客をモットーに皆様のご来店を心よりお待ちしております。

☆春夏商品続々入荷中☆

大阪店 TEL 06-6341-5578
大阪市北区梅田1-11-4 駅前第4ビル2階
京都店 TEL 075-222-0363
京都市中央区御池通高倉西入高宮町200 千代田生命御池ビル1階
営業時間 11:00 ~ 20:00

URL 一覧 QR

楽天 <https://www.rakuten.co.jp/e-lodge-2>
Yahoo <https://store.shopping.yahoo.co.jp/lodge-premiumshop/>
ブログ <http://blog.goo.ne.jp/lodge4>
Instagram 京都 <https://www.instagram.com/lodgekyoto/>
Instagram 大阪 <https://www.instagram.com/lodge.osaka/>
検索エンジンで「ロッジ」を検索してください。

〈編集後記〉

☆広島支部の『事故報告書・追悼集』が支部に届いた。ここでは問題点や今後の対策などが述べられ、安全登山に徹したクラブになる事を宣言している。辛い作業だったことが感じられた。

☆登山は、いわば遊びである。登りたい山より登れる山への指摘もあるが、やはり誰もが登りたい山に登ろうと思うだろう。個人が山を楽しむために、何が必要なかを今一度考えて行動したい。(N)

発行日 2018(平成30)年6月10日
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22 梅田東ビル3階 304号室
公益社団法人 日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00930-6-55950
発行者 金井良碩
編集 加藤芳樹 久保和恵 野口恒雄
制作 株式会社 双陽社 大阪市北区堂島2-2-28



SUNDAY AFTERNOONS™

メッシュで涼しい サングラスロック
カラーは全4色
サイズ:M(58cm)、L(60.5cm)
軽量です(73.7g)
素材:ナイロン88%、ポリエステル12%

UVカット率97%以上 (UPF50+)

日焼け対策は万全ですか?

撥水防汚加工済

ネックストラップ付

首回りまでしっかりガード

重ねば、こんなにコンパクト!

ウルトラアドベンチャーハット ¥5,400+税

お問い合わせ先:(株)ケンコー社 TEL:06-6374-2788

山岳 雑誌 岳人

山と人、時代をつなぐ山岳雑誌「岳人」

7月号
発売中

【特集】日本の高原 尾瀬と大台ヶ原
★メンバーのウェブサイト、全国のメンバーストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格815円(+税)

▶年間購読がおすすすめ 購読割引 送料無料 限定品プレゼント

通常価格 12冊 9,780円(+税) → 年間購読 12冊 8,965円(+税) 1年間で、1冊分 815円おトク!



年間購読のお申し込み WEB <http://www.gakujin.jp/> モンベルストアでも受付中 お問い合わせ モンベルポスト ☎0120-982-682 / TEL 06-6538-5797 ※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

〒606-8161
京都市左京区二乗寺木ノ本町15

ナカニシヤ出版

TEL 075-723-0111
FAX 075-723-0095

表示は本体価格です。



登山と山麓ウォーキング
伊吹山案内

草川啓三 著
A5判 184頁
写真・地図多数
1,900円

百名山にも選ばれている花いっばいの名山・伊吹山。少し視点を変えて深く入山してみると、「花」以外にもさまざまな魅力が見えてくる。



京都府山岳総覧

内田嘉弘・竹内康之 編著
A5判 272頁
口絵カラーほか
写真・地図多数
2,200円

京都府の339の山を実地踏査して、登路を含めて解説。主な山には概念図・写真を加えた、京都の山の最も詳しい案内書。標高100m以上全三角点を掲載。



大阪の山歩き100

清水満著
A5判 184頁
オールカラー
写真・地図多数
1,800円

大阪の山々はそれぞれに歴史があり、個性に富んでいる。バスや電車を利用して家族づれで登れるコースを100山・100コース選んだウォーキングガイド。

街中から気軽に楽しむ山歩きガイド 清水満著



「登山は文化です」
山の本をつくる

中西健夫 著
A5判 288頁
2,800円

「山が好き、本が好き」で50年、京都北山からヒマラヤ、アルプスまで、百冊以上の山書を出版した著者が、山の本へのこだわりと著者との交流をふりかえる。

【山旅専門の旅行会社】アルパインツアーからのご案内

ギリシャ最高峰オリンポス山登頂と世界遺産メテオラ、エーゲ海クルーズ 10日間

出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
9/10(月)～9/19(水)	¥498,000

ギリシャ神話の神々が住むと言われる最高峰オリンポス山を山小屋に2泊するゆったり行程で登ります。旅の前半は、絶景を誇る世界遺産のメテオラを訪ね、旅のしめくりは、エーゲ海クルーズも楽しむ、まさにギリシャの山旅の決定版です。



▲ギリシャ最高峰の一つスコリオ・ピークへ

【祝日利用で行く】マレーシア最高峰 Mt.キナバル(4,095m)登頂 5日間

出発日～帰着日	旅行代金 (大阪発着)
10/6(土)～10/10(水)	¥198,000

このコースは標高3,300m付近に建つ山小屋に1泊し、コンパクトな日程でキナバル山の頂を目指します。ご旅行期間は、祝日と土日が含まれる5日間です。有職者の方にもご参加しやすい設定です。



▲最高地点、ローズピークまであと少し



観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員

ボンド保証会員

アルパインツアーサービス株式会社

大阪 06-6444-3033
〒550-0003
大阪市西区京町堀1-4-3(TCF肥後橋ビル2階)